

can

1. can とは？

can とは助動詞で「～できる」の意味です。比較的、皆さん簡単に理解できるようです。また、must と同じで「～にちがいない」の意味もあります。

2. can の英作文

1 肯定文

主語 + can + 述語（動詞の原形） + ～.

まずは「～できる」の意味の例文を紹介します。

例文： 私は英語を話すことができます。

⇒ まずは単語に

私は 英語を
(I) (English)
話す ことができます。
(speak) (can).

⇒ これを 主語 + can + 述語 + ～. に並べると、
I can speak English. (完成)

主語が 3 人称単数でも **can** + 動詞の原形です。

例文： 彼女はピアノを弾くことができます。

⇒ まずは単語に

彼女は ピアノを
(She) (the piano)
弾く ことができます。
(play) (can).

⇒ これを 主語 + **can** + 述語 + ～. に並べると、

She can play the piano. (完成)

このように、一般動詞の肯定文を **can** の文にする場合は、動詞の直前に **can** を置けば OK です。もう一つ、主語が **they** の例文を挙げておきます。

例文：

[肯定文]

They use this computer.
(彼らはこのコンピューターを使う。)

[**can** の文]

They can use this computer.
(彼らはこのコンピューターを使うことができる。)

では次は、「～にちがいない」の意味で英作します。

例文： それは真実に違いない。

まるでコロン君の台詞みたいです。

⇒ まずは単語に

それは 真実に 違いない。

(It) (the truth) (must be).

⇒ これを 主語 + can + 述語 + ～. に並べると、

It can be the truth. (完成)

これでOKです。「～できる」「～にちがいない」のどちらの意味で使う場合も、can の位置や英作文の作り方は同じです。

2 否定文

主語 + can not (can't) + 述語 (動詞の原形) + ~.

can の直後に not を置くだけです。まずは「～できる」の意味の否定文を紹介します。

例文： 彼はフランス語を話すことができません。

⇒ まずは単語に

彼は フランス語を

(He) (French)

話す ことができません。

(speak) (can not).

⇒ これを 主語 + can not + 述語 + ~. に並べると、

He can not speak French. (完成)

(= He can't speak French.)

このようになります。

元々できあがっている can の肯定文を否定文に変化するには、can の直後に not を置くだけです。

例文：

[肯定文]

I can write a letter in English.

(私は英語で手紙を書けます。)

[否定文]

I can not write a letter in English.

(私は英語で手紙を書けません。)

では次は、「～にちがいない」の意味で否定文をつくります。1の文をそのまま使います。

例文：

それは真実に違いない。

(It must be the truth.)

⇒ can の直後に not を置くと、

It can not be the truth.

(それは真実なわけがない。)

このようになります。

3 疑問文

Can + 主語 + 述語 (動詞の原形) + ~ ?

Can を文頭に持っていきただけで疑問文が完成します。「~にちがいない」の意味での疑問文はあまり使いませんので省略します。

例文：

He can run very fast.

(彼はとても速く走ることができます。)

この文を疑問文にします。**can** を文頭に持っていきだけです。

⇒ **Can he run very fast?**

(彼はとても速く走ることができますか。)

「はい」の場合

Yes, + 主語 + can.

「いいえ」の場合

No, + 主語 + can not (can't).

ここで注意しなければならないのは、疑問文と答えの主語が変わる場合があることです。詳しくは **be** 動詞現在形を参照下さい。では、すぐ上の疑問文に答えてみます。

答え方：

Yes, he can.

(はい、走れます。)

No, he can not (can't).

(いいえ、走れません。)

can は出題率が高い割に、難易度が低い単元だと思います。理解しやすい単元だと思いますので、しっかりと身に付けてください。

3. 疑問詞を含む文

ここでは、よく出題される、**what** と **who** の **can** を含む文を紹介したいと思います。

1 what

疑問詞＋疑問文で出来上がります。

例文： あなたは何が見えますか。

この例文を英作します。すぐ上に記しているように、疑問詞と疑問文さえわかればすぐにできます。

疑問詞は？

“何が” は **what** なので、疑問詞は **what** できまりです。

疑問詞…**what**

疑問文は？

疑問詞の後ろは普通に疑問文をつくるので、「何が」を省いてのこった文は「あなたは見えますか。」となります。これを英作文して、

疑問文…**Can you see?**

疑問詞＋疑問文で完成

上の疑問詞と疑問文をひっつけて完成です。

What can you see?

2 who

これも疑問詞＋疑問文で OK です。

例文： 誰が彼女を手伝えますか。

この例文を英作します。疑問詞と疑問文を探っていきます。

疑問詞は？

“誰が” となっているので、文頭は **who** で決まりです。

疑問詞…**who**

疑問文は？

「誰が」以外の「彼女を手伝えますか。」を疑問文にします。

疑問文…**Can help her?**

疑問詞＋疑問文で完成

上の疑問詞と疑問文をひっつけて完成です。

Who can help her?

can の単元で疑問詞が出てくると混乱する方が多いですが、疑問詞＋疑問文の形を作ることを覚えて下さい。

4. can の書き換え

can = be able to + 動詞の原形

can は be able to + 動詞の原形に書き換えることができます。以下に例文を示します。

例文：

He can drive a car.

= He is able to drive a car.

(彼は車を運転することができます。)

Can he drive a car?

= Is he able to drive a car?

(彼は車を運転することができますか?)

He can't drive a car.

= He isn't able to drive a car.

(彼は車を運転することができません。)

以上のように、どちらを使っても正しい英文です。では be able to を使う利点を説明します。

英語は、助動詞+助動詞というように、助動詞を続けて使うことはできません。例えば、

例文：

He will can drive a car.

(彼は車を運転できるようになるでしょう。)

この文は正しくありません。なぜならば、共に助動詞である **will** と **can** が連続しているからです。

こういう場合に、**be able to** が役立ちます。**can** を **be able to** にします。

He will be able to drive a car.

こうすることで、助動詞の連続を防ぐことができます。

なお、**will** も **be going to** に書き換えることが可能なので、この場合は、

He is going to be able to drive a car.

このような文にしても構いません。助動詞の連続使用を避ければOKです。

Copyright (C) 2008 All Rights Reserved, ちょいデブ親父の英文法